平成２５年（２０１３年）３月３１日 第１４号

よこすか育成通信

題字：横須賀市長　吉田　雄人

横須賀市青少年育成推進員連絡協議会

ガンバッてます!!　非行防止キャンペーン

内閣府では、７月を『青少年の非行・被害防止全国強調月間』、１１月を『子ども・若者育成支援強調月間』と定め、子ども・若者育成支援と非行・被害防止に関心を高める取り組みをしています。これにあわせて横須賀市青少年育成推進員連絡協議会では【非行防止キャンペーン】をおこなっています。

★.。.:*・゜ ★.。.:*・゜ ★.。.:*・゜ ★.。.:*・゜ ★.。.:*・゜ ★.。.:*・゜

１１月３日　京急田浦駅周辺

田浦中学校区

薄暮れの寒い中、田浦中学校生徒・先生・田浦警察署員・保護司と育成関係者の計２３名で行いました。

祝日とあって、乗降客や通行人が普段より少なく感じました。それでも中学生１３名全員が「青少年に愛のひと声を」の襷をかけ、手際良く駅改札口周辺と国道沿いに分散し、大声で非行防止を呼びかけ「目を向けよう、話そう、考えよう」のチラシとティッシュを配布しました。

中学生が知り合いのお年寄りから声をかけられ「頑張っているねェー、お兄ちゃんも元気ィー」と、何気ない会話をしていました。

また、駅周辺の商店街の人たちからも中学生に「ご苦労様」と声をかけられ、励ましのひとことがどれほどやる気と希望を与えることができたことか。これが本来の非行防止の原点かと痛感しました。　（笹川　淳）

１１月１０日　浦賀駅周辺

浦賀・鴨居中学校区

今年は浦賀中学校生徒会と鴨居中学校バトミントン部の生徒たちのコラボで、改札口や駅の階段下などで、チラシ・ティッシュを配り、非行防止の呼びかけを行いました。

生徒を含め参加者は、芦澤会長と浦賀・鴨居中学校区の青少年育成推進員、浦賀地区担当保護司、浦賀警察署員、総勢３９名。

生徒たちは、駅に向かう人、駅から降りてくる人に慣れない呼びかけをしましたが、なかなかチラシを受け取ってもらえず、初めての体験に戸惑いつつも、ご苦労さまという声をかけてくれる人もいて、努力は報われるという思いを新たにしたようです。着ぐるみは人気者でしたが、中に入った生徒は暑くて大変だったと思います。（遠藤　俊義）

１１月１０日　津久井浜駅周辺

北下浦・長沢・野比中学校区

『非行防止キャンペーンです！ご協力お願いします』と各中学校の子どもたちは笑顔で積極的にチラシやティッシュを渡して、道行く人々が受け取ってくれた時は、『有難うございます』と大きな声を出していました。

北下浦・長沢・野比中学校の生徒１６名・学校関係者８名・育成関係者（駐在さん、連合町内会長、地域連絡会メンバー）２２名の総勢４６名で、みかん狩りから帰る小さな子どもには同じ目線になって風船を渡し、保護者に対してはチラシとティッシュを渡して声掛けをしていました。「何の募金ですか？」と質問されても、自信を持って「非行防止です」と答える姿も見られました。

今年も笑顔で穏やかな非行防止キャンペーンでした。　（小幡　玲子）

11月17日　京急久里浜駅周辺

久里浜・神明中学校区

悪天候の中、生徒２１名、先生方８名、青少年育成推進員１３名が集合。

強風のためのぼりはバタバタ、持つ手は震え、みんなで膨らませた風船は飛ばされて舞い上がり、それを追いかけて笑い、体も気持ちも温まりました。

その後、ロータリー周辺２カ所・商店街中央１カ所に分かれスタート。

天候のせいか、いつもより人通りが少ないように感じましたが、生徒たちは大きな声で、『お願いしま～す』とチラシとティッシュを道行く人に手渡し、小さな子にはかがんで風船を渡していました。

「がんばってるな」「ありがとう」と声をかけられて、ほんのり頬を赤くしたテレ顔は可愛かった～。

それぞれ協力しあい、チームワークよく進行し、推進員の出る幕はあまりなく、ただただ見守るばかりで、こんな生徒たちが頼もしく感じた時間でした。　　（五井　直子）

ウォークラリー

１２月９日（日）、寒い冬晴れの中『～開国の港　浦賀を歩こう～』を浦賀地区で開催しました。

総勢２４３名（内スタッフとして育成推進員９６名）が参加しました。

第7回中学校区対抗ウォークラリー大会

12月9日　浦賀中学校周辺

『ゴール！』目的地の浦賀中学校の体育館前では中学生の元気な声が続々と聞こえてきます。

当日は日本列島を寒気が包み込み、真冬並みの寒さでしたが、１５校３３チーム１４７名の生徒が元気一杯ゴールを目指し、浦賀の町を探索しました。

途中チェックポイントには、西叶神社、東叶神社、東林寺、八雲神社など歴史と伝統を誇る浦賀の町を象徴する史跡が含まれていました。

また、東浦賀と西浦賀間は渡船「愛宕丸」に乗船しました。渡船に乗船するのがはじめてという生徒がほとんどで、あっという間でしたが、船旅を満喫していました。

短い時間でしたが、開国の港『浦賀』の一端を知ることができ、本当に有意義なひと時でした。

最後にひとこと。冷え切った体を芯から温めてくれたラリー終了後の豚汁とおにぎりのことも忘れることができません。（菊本　充）

優勝した鴨居中学校Aチーム女子3人組にインタビューしました。

『クイズはみんなで協力し満点！

ゲームは重さ当てで持っていた物の中から適当に３個入れたら５００ｇピッタリだったのにビックリ！

全体を通して楽しかったところはゲーム、渡し舟と神社の狛犬探しでした。

そして勝因は、他チームには男子もいるので歩く速さを考え、女子の少し速いくらいの速度で歩いたことだったように思います。

風が強く寒かったけれど、とてもやりがいがあり、みんなで協力し楽しくできました』と、優勝がとてもうれしかったようで満面の笑みで答えてくれました。　　（松元　陽子）

わんぱくフェスティバル2012

10月21日　県立保健福祉大学

これ以上ない、この秋一番の青空の下、今年も県立保健福祉大学でわんぱくフェスティバルが行われました。芦澤実行委員長（当協議会会長）の協力団体への謝辞と、「よかったな、楽しかったな、と感じて帰ってほしい」とのあいさつで始まり、会場を提供していただいた中村学長は「地域に貢献できうれしく思います」と述べておられました。

会場では当協議会を含む主催７団体がそれぞれの趣向で子どもたちを迎えます。当協議会のチョコバナナや紙ヒコーキの手作りコーナーはすっかりお馴染みとなり、人気を呼んでいました。また、当協議会を広く知ってもらうため、各中学校区での活動をパネル展示しました。

おや、会場中央では明るい歌声が聞こえています。ガールスカウトによるメイポールダンスで、紅白のリボンがだんだんと編みあがっていき、周りからは手拍子と歓声があがりました。飛び入りの女の子の姿も見え、一緒に楽しそうです。と思うと次はガラッと変わって、心地よいケーナのフォルクローレが会場内に響き出しました。

目を転じると講堂では、ダンスやソーラン、和太鼓、吹奏楽など様々な団体が次から次へと演技を披露しています。そこには子どもたちの満足げな笑顔がありました。

多くの子どもたちが集まるこの盛況ぶりを見ますと、数年前には存続の危機があったとはとても思えません。子どもたちの健全な育成を願う私たちの思いが、続行させる原動力となっていることを強く感じさせるような催しだなと思いました。

「おもしろかったね。来年もまた来ようね、お母さん」という声が聞こえてくるような秋の一日でした。　　（西村　康彦）

活動体験発表会

2月2日　青少年会館3階ホール

昨年度に引き続き、地域役員の方々や青少年育成推進員１２３名の出席者を迎えて体験発表会が開催されました。今回は５中学校区、２研究部会の発表がありました。

追浜中学校区では校区内の高校生・大学生と協力し合い、小中学生が楽しく参加できるウォークラリーを成功させました。世代を超えてのネットワークを作り、継続してまた次に伝えていくという基本的な考えをもって活動しています。

不入斗中学校区は発足当時から中学校との関係が強く、いろいろな活動に学校やＰＴＡの協力を得ています。小さな町内会が多く予算も限られているため、大きなイベントなどは難しいので今後も地道な活動を心がけていくそうです。

市内一の在校生数を持つ浦賀中学校区では地域と学校の連携強化のための環境作りを行っています。活動の主体は学校・生徒・地域で、地域連絡会はそのサポートに徹しています。学習サポート、クラブ活動発表サポートなど幅広く手がけています。

神明中学校区では今年度、中学校生徒会主催の「美花運動・ハナコ」という学級単位で花を育てるコンテストがあり、地域連絡会がその支援をしました。力作の花壇の映像も紹介されました。

北下浦中学校区は小学校、中学校、行政区が複雑に入り組んでいる地域にあり、その活動も他学区の団体と協力して行っています。夏のそうめん流しやサマーコンサートは地域の行事として定着してきました。

環境研究部会からはパネル展示・非行防止キャンペーン・社会環境実態調査について、研修研究部会からは「わんぱくフェスティバル」でのチョコバナナ出店と今年度より改正された青少年保護育成条例についての発表がありました。

各学区ごとに特色のある活動を行っており、参考点も多くあります。来年度の発表会も企画されているようなので参加されることをお勧めします。　　（浅葉　洋子）

第45回神奈川県青少年指導員大会

12月2日　関内ホール

横浜市立中沢小学校合唱団の澄みわたる歌声から始まり、その余韻のなか『育てよう、未来を託す青少年』のスローガンのもとプログラムが進行しました。

主催者・来賓のあいさつのあと、永年にわたり青少年育成に尽力された方々に、感謝状が贈呈されました。

受賞された芦澤会長は「２１世紀生まれが中学生。時代を担うべき青少年と今後も関わり続けたい。家庭、学校、地域の様々な素晴らしい仲間に感謝」。不入斗の若山さんは「地域の皆様との素晴らしい出会いで、多くの事を経験させていただきました。それは人生の宝です」と歓びを語られました。

次に、横浜市の神奈川区並びに南区の青少年指導員連絡協議会から各々活動発表がありました。

その後「幸福の条件」というテーマで薬師寺執事大谷徹奘師の巧みな話術とパフォーマンスで、１時間と限られた中の講演でした。

心を込めたあいさつで始まり、平凡な日常の積み重ねが如何に大切なのか考えさせられ、自己を見直した貴重なひとときでした。

最後に「よっぽどの縁があっての出会いです、あなたの笑顔が私の笑顔」青少年育成に携わる私たちに、ぴったりの言葉だと思いませんか。大谷師に感謝です。（鈴木　啓子）

技術研修会

11月19日　青少年会館会議室

当協議会では、青少年育成推進員に向けた研修会を開催しています。

神奈川県青少年課から講師を迎え、会場いっぱいに集まった参加者の真剣な空気に包まれ、２つのテーマで講演会が行われました。

『かながわ青少年育成・支援指針について』では、県の３つの基本目標とその具体的な施策がどのように展開されているのか、たくさんの資料をもとに詳しく学びました。

『青少年保護育成条例の説明と青少年情勢』では、この条例について現在の青少年犯罪の具体例を示しながら、一つ一つ丁寧な解説がありました。条例を詳しく読むと、子どもたちを取り巻く環境に、法の抜け穴に潜む危険がいかに多いのか、あらためて知ることができました。

地域に暮らす大人として、私たちの活動が少しでも子どもたちの役に立てるよう努められればと、身の引き締まる思いがし、有意義な研修会となりました。　（村地　紀子）

♪ゆうやけこやけ♪

東北地方に雁風呂（がんぶろ）という風習があった。秋に北から渡ってくる雁の群れは、小枝をくわえて飛んでくる。海上に小枝を浮かべ、その上で羽を休める。日本に着いた雁は岸に小枝を落とし、春に旅立つ時くわえて帰るという。岸に残った小枝は、力尽きた雁の止まり木であると信じられていた。浜の人々は小枝を集め風呂を焚き、雁の供養にと旅人に風呂を振舞ったという。

東北人の優しさと知恵が、心を豊かに育くんだのでしょう。私達もその優しさを無くしたのではなく、ちょっと置き忘れただけなのです。今年はその優しさを思い出し、お互いに実行したいものです。

震災から２年経ちますが、未だに東北の復興には大きな問題があり、遅々として進まない状況を見るにつけ人々の優しさを思い出して欲しい今日この頃です。（Ｔ．Ｔ）

編集後記：

活動を重ねるうちに、だんだんと顔見知りになり、和やかに会話ができるようになりました。こうして人と人とのネットワークができ、広がっていくのだと思います。大人だって孤独はつらい、子どもたちにも見守っている大人や良き友がたくさんいること、ひとりではないことを知ってほしいと願っています。　（編集担当　小川　輝夫）

「よこすか育成通信」第１４号
発行／横須賀市青少年育成推進員連絡協議会
会長　芦澤　雄一
〒238-8550　横須賀市小川町 11 番地
横須賀市役所こども育成部
こども青少年企画課内
ＴＥＬ　０４６－８２２－８２２３
http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/3405/g_info/1100050659.html